

古賀弘人・北大名誉教授のお別れサローネ

「最近のイタリア映画」を語る

古賀弘人 北海道大学名誉教授を迎えたサローネ・ディタリアが、3月20日(火)札幌市中央区のブライトサッポロで開かれました。会員の他、北大講師・学生、マリアンナ・チェスパさんのご両親を含む18人が、此の度北海道を離れられる古賀先生のさよなら講演会『最近のイタリア映画』を熱心に聴講しました。

映画は一つの豊かな現実

冒頭紹介された“近頃観たイタリア映画”は30作品に及び、20回以上ご覧になったという6時間余の大作『輝ける青春』(注1)や、最も優れた作品と評された『愛の勝利』(注2)をはじめとして、名作と言われる古い映画から、最近封切られた作品に至るまで解説されました。

先生の“映画に対する基本的認識”として、“映画とは「過去」を再現し、スクリーン上で「現実」として作り変えるシステムであり、観客はそれをあたかもそうであったように騙されて、その中に取り込まれていく”という映画観を語りました。また、誰もが同じ上演時間内で観る“時間の芸術”でありながら、観る人によって解釈が違う事を、映画は教えてくれるとも述べました。更に、見終



近頃、30作品は観たと語る古賀教授

わって現実に引き戻された時、大切な事は映画の中の「現実」も1つの現実として捉えることで、そのような「現実」を沢山合わせ持つ事により、自ら豊かになるという考えを示されました。

「イタリア映画は、人間の肌触りがよく出ていて好き」と熱く語る先生の“言葉”に魅了され、皆観た映画・観てみたい映画を思い浮かべながら、和気藹藹としたひと時を楽しみました。

注1 『La Meglio Gioventù』 Marco Tullio Giordana 監督

注2 『Vincere』 Marco Bellocchio 監督

(菅原 明子)



受講風景。写真④マリアンナ・チェスパさん(左から3人目)の来道中のご両親(その右)も参加した

1990年に創設された国際教育音楽祭パシフィック・ミュージック・フェスティバル「PMF」は、20世紀を代表する音楽家レナード・バーンスタイン(1918~1990年)の提唱により「世界中の人と感動を分かち合い、それを受け継いでいく人たちを育てたい。そして音楽教育を通じて世界の平和に貢献したい」という情熱と「夢」が形となった。

世界各地からオーディションで選ばれた若手音楽家たちが集い、その育成の場としてサッポロを根拠地として開かれている「PMF」。教授、指揮者陣は世界を代表する方々が招かれ、彼らの演奏を鑑賞するのが市民の大きな楽しみであり、夏の日々の風物詩として定着している。



PMF1996年のプログラム表紙

私にとって懐かしい「PMF」の参加の思い出がある。

1996年の夏、第7回PMFでモーツァルトのオペラ「コジィ・ファン・トゥッテ Cosi fan tutte」を公演するので地元で合唱を作って欲しい…との依頼が私のところに舞い込んだ。嬉しくて嬉しくてすぐに二期会を中心としたメンバー、ソプラノ、アルト、テノール、バス各パート6名ずつ計24名を張り切って集めた。待ちに待った「PMF」のオペラである。

指揮者はクリストフ・エッセンバッハそして演出家はメゾソプラノ、クリスタ・ルードビッヒの二番目の夫、ポールエミー

人生！音楽の旅

⑬

三部 安紀子

ユ・デベール、フランス人の俳優でもある。ソリストはフィオルディリージ役に佐藤しのぶ、ドラベッラにマリー・マクローリン、デスピーナ役にヌッチャ・フォチャーレ、フェルランドにヴィンソン・コール、グリエルモ役にジェラント・フィンリー、アルフォンゾ役にウィリアム・シメルという皆世界中飛び回っている歌手達の集まり。私の立場としても責任重大で、エッセンバッハとはイタリア語で、演出家とはドイツ語で進行することでき、日々稽古に緊張して出かけたものである。

特に演出家の注文がいろいろ出て、日本的要素を舞台に…アイディアはあったようだが、具体的な舞台は予算上出来なくて結局ほぼ演奏会形式のステージ

になった。1日目は厚生年金会館ホール、2日目は芸術の森野外ステージの2回公演。

本番が終了したとき、特にソリスト達から、素晴らしい合唱団なのでこのまま世界中を回って公演しようと、絶賛されたときは飛び上がるほど嬉しくて興奮したものだ。

今後とも地元と一緒にここサッポロ

PMFでオペラ公演

ソリスト達からの賛辞に興奮



今年の第23回PMFのチラシ

でオペラの舞台が展開することが可能かもしれない…とわずかな希望を持ち続けて…。その後オペラは??? どうやら

資金不足でオペラ公演不可能との結末！残念でたまらない！今年もやがて始まる23回目の「PMF」、フォビオ・ルイジ芸術監督の幕開きである。

地元も一緒に参加出来て成長していけるような「PMF」であって欲しい、と一市民として願うばかりである。

(会長、北海道二期会理事長、みべ音楽院長)

7月13日(金)に 総会・サローネ・ディタリア

第39期 総会、サローネ・ディタリアのお知らせ

と き 7月13日(金) 総会 17時から Salone・懇親会 18時30分～20時30分
 と ころ 法人会員・札幌グランドホテル 東館17階 青雲の間
 講 演 イタリアワインの魅力 モンテ物産(株) 関岡 錬(れん)札幌支店長
 会 費 6,000円(総会のみ出席の会員は無料)
 申し込み 北海道日伊協会事務局へ 電話 011・241・0345 FAX011・241・0567

Mail: shin-y0123@brightsapporo.com

新会員

デニス・スキアーヴォさん

4月開店のレストラン「ラ・ヴェネツィアーナ」のオーナーシェフ。北イタリア・ヴィンチェンツィア出身。日本語も堪能。海外ホテルのほか、シェラトン札幌ホテル、イタリア料理店「ロカンダ」シェフとして、札幌で活躍していましたので、おなじみの会員も多いと思います。みべ音楽院ビルとは、ほぼお隣り同士。

以下は、開店のプレス・リリースから――

選ぶのが楽しくなるような前菜 お得意の自家製パスタ
 イタリア人シェフによる

ヴェネツィアンスタイル オステリア&バー

“LA VENEZIANA” (ラ・ヴェネツィアーナ)

札幌市中央区大通西 15 丁目 1-13 ニューライフ大通公園 1F
 営業時間: 17～24 時 定休日: 日曜日

Tel&Fax; 011-612-5599

7月3日(火)午後6時30分から会員有志による夕食会を行います。時間のある方はぜひご参加ください。

編集後記

初夏を彩るアカシアの花が、今年は小さく寂しいと思っていたら、会報は花盛りで初めて20ページになりました。内容も紀行、交際交流、アートエッセイなど楽しみ満載。外川初代会長の活写する協会設立の当時の苦労と情熱には、鼓舞されるどころ大です▼北海道の最もいい季節の6月、全道で咲いている野の花は何種類? みんなで調べてみよう—というのがフラワーツ。5年ごとの4回目が6月16、17日に行われ、参加しました。写真は藻岩でみつけたサイハイラン。緑滴る中に、楚々として、よく見ると力いっぱいのピンクの装い。自然の豊かではかない生命力です(金子国彦)

大阪日伊協会
55年の歩み

大阪日伊協会は設立55周年を迎え、「55年の歩み」を刊行した=写真=。協会の歴史、座談会「日伊の絆はより深く」、11人のエッセイ、年表・資料など150頁

の労作。西村嘉郎会長は挨拶の中で、戦後10年目の設立にふれて「ともに敗戦国、平和への願いを共有していた」日伊両国の交流・親善に動いた当時の飯島幡司・朝日放送社長の先見性を讃えている。ペトローネ駐日大使、橋下徹大阪市長らとともに、三部会長がお祝いメッセージを寄せた。事務局に寄贈本がありますのでご覧ください。

